

第13回（令和3年度第2回）経営評価委員会 議事録

委員：高杉委員長・鹿島委員・木村委員・辻委員・露口委員・吉岡委員（6名）

【内容】

<議題>

① 令和3年度 運営状況について

事務局から「資料1 和泉市立総合医療センター運営事業 令和3年度運営状況（4月～1月）」に沿って、令和3年度の運営状況の報告を行った。

- 1日あたりの患者数は、入院が307人、外来患者数が1,021人となり、それぞれ前年度比で13人、96人の増となった。
- 診療単価は、入院が前年度から0.8%増。外来が前年度から3.8%の増となった。
- 救急患者数は10,159人で前年度比1,564人の増となり、救急患者のうちの搬送者は2,418人、搬送者の入院率は38.5%となった。
- 和泉市消防本部からの救急搬送件数は1,498人で前年度比12人（0.8%）増、市外搬送は2,389人で338人（16.5%）の増となったが、搬送率は前年度より2ポイント減少している。
- 平均在院日数は、全診療科で11.9日となり、前年度比で0.1日増加した。
- 患者紹介率は、今回から地域医療支援病院の承認時における算定方法に変更しており、紹介率が68.5%で前年度比4.9ポイントの増、逆紹介率が85.5%で前年度比3.1ポイント増となった。
- 人間ドックの件数は1,402人となり、前年度比で18.9%の増となった。
- 医療事故等への対応としては、インシデントが1,967件で前年度比25件の増、アクシデントが38件で前年度比5件の増となった。
- 職員数（常勤換算人員）については、令和4年1月末時点で、医師が128.09人、看護師330.68人、医療技術職が133.66人となった。
- 患者サービス向上に係る取り組みとしては、和泉の地域医療を考えるシンポジウムや災害時医療訓練などを継続的に行うほか、新たに地域がん診療連携拠点病院・がんゲノム医療連携病院指定報告会を行った。
- 提案ポスト（投書件数）については、お礼が7件、苦情・要望等が119件、総件数126件であった。
- 医業収益は、10.6%増の117億5,803万5千円、経常損益は21億3,981万7千円の黒字となった。

上記報告に関して各委員から以下の質疑等があった。

(吉岡委員)

病床稼働率が 100%となっているが救急入院の受け入れなどのことも考え、もう少し率を落としてはどうか。

(指定管理者)

この 100%の数字には、大阪府からの要請でコロナ患者の受け入れが入っており、大阪府からコロナ受け入れによるオーバーベットの許可をもらっている。そのため、稼働率が 100%となっている。

(高杉委員長)

もう少し救急搬送率を上げることはできるか。それとも現状の率でいいと考えているのか。

(指定管理者)

この数字でいいとは思っていない。引き続き、率を向上できるよう取り組んでいく。

(高杉委員長)

救急搬送依頼で、受け入れた件数、受け入れを断った件数を把握してはどうか。

(指定管理者)

和泉市外からの搬送もあるので、今後検討する。

(木村委員)

搬送率を増やすには、現状の場所の拡張や設備投資などが必要と思うのだが可能か。

(指定管理者)

救急患者を受け入れる場所の拡張は必要と思っている。なお、救急専門医は 4 月から確保できる予定。

(露口委員)

平均在院日数を減らすことはできないのか。

(指定管理者)

国の基準では 9 日と示されている。減らすことができるよう努力する。

(露口委員)

紹介率、逆紹介率向上の取り組みは。

(指定管理者)

市内の医療機関に出向き連携を図っている。また、医師にも地域の医療機関に逆紹介するよう周知している。

(吉岡委員)

手術件数で、脳神経外科の全身麻酔の件数が前年度に比べ大幅に減っている要因は。

(指定管理者)

ほとんどの手術が局部麻酔によるものであった。

(吉岡委員)

アクシデントで2件の患者となると思うのだが、報告で医師1件、看護師3件となっている。医師からの報告が2件あるのではないのか。

(指定管理者)

腓骨神経麻痺の患者は安静目的臥床中におきた事例のため整形外科医からも報告があがった。頸椎骨折転落四肢麻痺の患者はトイレに行こうとしてベッドから転落したため看護師のみの報告となっている。

(鹿島委員)

医療事故等への対応で、内訳の種類別件数でその他が増加している要因は。

(指定管理者)

令和2年度の項目を整理し、令和3年度はその他に褥瘡（じょくそう）を計上したためである。

(辻委員)

インシデントについて、診療科別に資料を作成できないか。

(指定管理者)

作成できるように検討する。

(露口委員)

アクシデントによる訴訟はあったのか。

(指定管理者)

なかった。

(高杉委員長)

看護師の人数が減っている要因は。

(指定管理者)

コロナ禍の影響もあり、年度途中で退職する看護師もいることから、令和3年4月時点より減少している。しかし、令和4年4月には前年度と同程度の人数になる予定である。

(高杉委員長)

コロナ影響のなかでも、前年度に比べ入院・外来患者数の増などに取り組み全体的にがんばっている。

② 令和3年度 進行管理（PDCA）チェックシート兼経営評価シートについて

事務局から「資料2 令和3年度 進行管理（PDCA）チェックシート兼経営評価シート（4月～1月）」に沿って指定管理者の自己評価、市の評価を報告した。

(辻委員)

評価する際、各項目の評価基準を定めるべきでは。

(指定管理者)

評価基準を明確化できるよう努める。

(鹿島委員)

高度・専門医療については、評価を9点でもよいと思っている。

(指定管理者)

まだまだ取り組むべきことはあるので、引き続き、向上できるよう取り組んでいく。

(露口委員)

待ち時間はそれほどないと思っている。評価は7点としているが、基準が定かでないものもあるが、もう少し上の点数でもいいのでは。

(指定管理者)

引き続き、評価点数を上げることができるよう取り組んでいく。

③ 令和4年度 和泉市立総合医療センター 事業計画（案）について

指定管理者から「資料3 令和4年度 和泉市立総合医療センター事業計画（案）」に沿って、事業計画（案）の説明を行った。

(露口委員)

決算書から財務状況が非常に良い状況であると思うが、事業計画（案）は、内部留保資金等の活用を反映して作成しているのか。

(指定管理者)

具体的な反映はできていないが、今後、作成する際には市と協議する。